

平成28年5月10日

## 「給水のためのタイムアウト（給水タイム）」の取り扱いについて

全国高体連バレーボール専門部審判委員会

夏季の大会においては高温多湿の環境でバレーボール競技を行うと発汗により水分が失われたり、体温上昇などにより、熱けいれん、熱疲労、熱射病などの「熱中症」に陥ることがあります。

熱中症予防の観点から、選手、審判団の健康管理を維持するために「給水のためのタイムアウト（以下、「給水タイム」とする）」を必要に応じて採用してください。

なお、各ブロック、都道府県大会等においてはすでに採用していただいているところもあると存じます。給水タイムの取り扱いについては現状に応じて取り扱い方法を変更して採用してください。

### 【 給水タイム（給水のためのタイムアウト）の手順 】

1. 各セットにおいて、リードするチームが13点目に達したとき、30秒間の給水タイムを自動的に適用する。最終セットが15点制の場合は適用しないが、25点制の場合はチェンジコートをしたあとに適用する。
2. タイムアウトと同様に、副審がホイッスルで合図をして給水タイムに入る。30秒後に給水タイムの終了を副審がホイッスルで合図をする。
3. 給水タイムは、正規の試合中断の要求（タイムアウト、選手交代）やリベロリプレースメントより優先される。上記を行う場合は給水タイム終了後にその手続きを行う。
4. コート内の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンで給水を行う。
5. 給水タイムは給水だけを目的としたものなので、選手（生徒のマネージャーも含む）だけで実施される。
6. ベンチスタッフ（生徒を除く）は選手との会話は認められない。
7. タイミングが遅れた場合は、確認できた時点で給水タイムを適用する。